

オオゴマシジミ

Maculinea arionides



種名

分類

シジミチョウ科

形態

前翅長 17~25mm。裏面は青みをおびた灰白色。黒斑は大きく発達する。翅表は青紫色、外縁に黒褐色帯びをもち、黒斑がある。♀は♂より外縁の黒帯が幅広く、後翅表が褐色をおびる。

分布

北海道(南西部、渡島半島)、本州(東北~中部地方)。分布は限られ、山地性で、棲息地が異なる。本種の東北~中部地方では、亜高山帯に多い。

出現期

年1回の発生。7月下旬より羽化、8月に多い。終齢(4齢)幼虫で越冬する。

生態

おもに山地の溪谷沿いに棲む。林縁、涸れ沢の草地などに見られ、ヒヨドリバナ、ニガクサで吸蜜する。棲息地からあまり離れない。♂は蝶道のようなものをつくり、斜面を往復飛翔する。飛び方は素早い、♀は食草付近をゆるやかに飛び、食草の花穂、蕾に1個ずつ卵を産む。4mmぐらいに成長すると、食草の茎で静止する。体色は赤紫色から次第に白色をおび、老熟すると乳白色に変わる。

食樹

4齢初期までは、シソ科のカメバヒキオコシの花や蕾を食べる。

幼虫
(幼生期)

体長15mm。やや幅が広く、背の高いずんぐりとした形状。幼虫は蜜腺から蜜を分泌してアリに与える。

出現時期

(月)	-	-	-	-	-	-	7	8	9	-	-	-
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

カテゴリ

絶滅危惧II類 (VU)

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ